

病院を核としたまちづくり推進特別委員会記録

開催日時 平成25年11月27日(水) 10:02~10:58

開催場所 第1委員会室

出席委員 7名

荻田 義雄 委員長

森山 賀文 副委員長

大国 正博 委員

山村 幸穂 委員

中野 雅史 委員

神田加津代 委員

小泉 米造 委員

欠席委員 1名

山本 進章 委員

出席理事者 高城 医療政策部長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 12月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○荻田委員長 それでは、ただいまの報告またはその他の事項も含めまして、質疑があればご発言を願いたいと存じます。発言はございませんか。

○大国委員 おはようございます。せっかくでございますので、発言をさせていただきたいと思います。前回の委員会に引き続きまして、病院を核としたまちづくり推進特別委員会の中で、各市との協議あるいは住民の皆さんとの検討経過についてご説明をしていただきました。

それで、1点だけ特化して質問をさせていただきたいわけでございますが、病院ができる、また新たに病院を中心としてまちづくりを進める、この中では、各市のさまざまな計画との整合性がなくなってまいります。それはそれで整備の中で技術的なものや、あるいはハード的なものの検討をいただいているという報告もありましたので、それはそのとおり進めていくべきであろうと思いますが、一方では、これから高齢社会がますます厳し

くといいますか、加速する中で、ではこの奈良県で、その核となるまちづくりの中で、住民の皆さんがいかに安心をして住み続ける奈良県にしていくかという視点が必要だろうと感じております。病院ができて、そこに住んでいる方々が今まで以上に安心感がふえたかどうかという観点で見ると、なかなか極端に進むものではないと思います。

その中で、本会議等でも繰り返し質問をさせていただいておりますが、県立奈良病院の跡地に目指していらっしゃるまちづくりが非常に重要になるのではないかと。病院が移転するけれども、その跡地に医療も残る、あるいは福祉に関する施設等も必要になってまいりますし、そこには住んでいらっしゃる方が安心していただける施設あるいは医療機関との中間の役割が必要になるのではないかということから、先ほどご報告いただきましたけれども、先月になりますが、公明党として東京都新宿区の暮らしの保健室の秋山先生にお話を聞いてまいりました。高齢化が東京も非常に進んでおりまして、老朽化した団地の一角を借りて保健室、これはこだわりの名前だとおっしゃっていましたが、地域包括支援センターではなくて、あくまでも保健室ですと。学校の保健室をイメージしてくださいとおっしゃいましたけれども、住民の方が何かお困りのことがあったり、これは病院に行っても聞きづらいとか、これはなかなか福祉施設に行くにも敷居が高いというようなところがあれば、どんどん住民の方がその保健室に飛び込んでいらっしゃるって、そこには保健師さんやいろいろな方がいらっしゃるって、究極は解決するまでお話を聞いてくれるというスペースでございました。非常にすばらしいと。そこで必要であれば病院を紹介していただいたり、いろいろな機関を紹介していただいているという、いわば行政でもなく病院とかそういう施設でもないという位置づけの保健室でございましたが、こういった取り組みはある意味まちづくりで住民に最も近い機関として、必要だと感じた次第でございまして、その後、9月26日に奈良県に秋山先生がいらっしゃるって勉強会をされていると聞かせていただいたわけですが、9月26日の勉強会の中で、主にどんな話があったのかお聞きしたいと思います。

○中川知事公室審議官（県立奈良病院跡地活用プロジェクト担当）兼医療政策部次長医療管理課長事務取扱 ご質問いただいた点についてお答えさせていただきたいと思っております。

まず、東京で秋山先生が取り組んでいらっしゃる暮らしの保健室、ネーミングも含めまして、非常にいい取り組みをされているとお聞きして、随分以前から東京にはお邪魔させていただいて、秋山先生のレクチャーを受けたり、あるいは議論させていただいたり、その延長で9月に奈良県にもお越しいただいて、奈良市の保健所、それから県庁の関係課、

あるいは看護師で興味をお持ちの方も入っていただいて、多職種の方が顔の見える関係をつくらないといけないということも含めて、勉強会をさせていただきました。そのときは秋山先生、この方はもともと訪問看護からスタートされており、新しい訪問看護の形も含めて理論展開を実践されている方ということでご意見をいただきました。

大国委員がおっしゃるとおりで、地域包括ケアということなのですが、暮らしの保健室ということで住民の方が入りやすい、相談に乗っていただきやすいネーミングあるいは雰囲気づくりをされていらっしゃる方で、行政そのものでもなく、ボランティアの方も入ったような形、しかもそこに専門職としての看護師なり保健師なりがいるということで、あわせてボランティアの方で資格を持っている方がいらっしゃって、高齢の方にリンパマッサージまでしていただくことで、いろいろなサービスを提供したり、あるいは相談を受けたり、いろいろな診療所あるいは施設、その他のところをご紹介いただいたり、連絡をとったり、あるいは見守りもできる形の取り組みもされているということで、ぜひ奈良県でもそういう取り組みを進めるべきでしょうというご意見でした。

それと、もう1点は、ここに記載していますように当日は、大阪市中之島の近くにあります大阪厚生年金病院の看護部長ですけれども、急性期の病院であっても、これからは在宅支援、あるいは退院支援ということで、在宅へのかかわりを持っていかないといけないという論点でお話をさせていただきました。これまで急性期の病院というと、診療所なりの先生方のところに治療を終わった患者さんを送るのですけれども、ともすれば書類だけのことになりがちということで、急性期の病院の看護師なり医療職の人間が、在宅後のその方の暮らし向きも考えた上で退院調整をするべき時代に来ているというアドバイスをいただいております。我々としても、勉強会の中でもっともな意見をいただき、奈良県でもぜひ進めていきたいということで、これからも多職種の方同士の顔の見える関係をつくりながら、いただいた意見も踏まえて、できるだけ大国委員がおっしゃるように、高齢者の方が住まいの近くで安心して暮らせる形をつくっていくにはどのようなやり方がいいのか、その意味のモデルをつくっていききたいと。9月26日の勉強会でも最後はそういう意見で、奈良市の保健所の方も含めて、これからも議論展開をしていきたいというお話になりました。

報告は以上でございます。

○大国委員 ありがとうございます。やはり多職種の方々とこれまでにはなかったそういった議論、幅広い議論を住民の方を中心として進めていただく。そこにはまた県民の皆さ

んにもこういう議論をやっているのですということも、一部これからはお伝えしていただいて、県が目指している方向もお示しをしていただければと思っております。

また、ハード面、ソフト面という言い方をしておりますけれども、こういったまちづくりが今後新県立奈良病院やあるいは県立医科大学、また県立奈良病院周辺の地域で、もっと広がればいいと。いいモデルとして、県立奈良病院の跡地での一つの積み上げを大事にさせていただいて、そのノウハウを新たに県内各地域において進んでいけばいいと。これまでにないそういったスタイルというか、本当に行政はもっと住民の皆さんの近くにいるのだという実感がいただけるような取り組みが広がっていけばいいと感じて帰ってきた次第でございます。鋭意しっかりとまた勉強していきたいと思っておりますけれども、奈良県が健康で長生きするまちづくりを、知事も目指していらっしゃるけれども、健康という視点で関心度も高くなってくるでしょうし、その病院だけではなく、このいろいろ組み合わさった、この委員会でもまちづくりという形で議論していくわけですが、そういったことが進めばいいと、また進んでほしいということを目指まして質問を終わりたいと思います。

○神田委員 県立医科大学の周辺のまちづくりの調整会議が6回行われましたけれども、具体的な何かがあれば教えてほしい。というのは、県立医科大学の教育部門が県農業総合センターの跡地になっておりますけれども、跡地もいろいろな問題があると思うのです。景観とか高さとか、また、土質というのか、いろいろ問題もあると思うのですけれども、具体的な解決策というか、まだそこまではいかないとは思いますが、各部署担当という中で具体的なことが検討されているのかどうかを聞かせていただきたいと思っております。

それと、多職種連携の現状と課題の中でどういう課題があるのかと思って聞かせていただきましたのですが、大国委員の質問の答弁で少しは理解をさせていただきました。介護保険が始まってからも最終的には在宅介護でというのが目標であったと思うし、その方向へと思ってそれぞれの取り組みがありますけれども、なかなか現実的に難しいのです。施設、施設へと流れていく中で、本当に思い切って、もっと具体的にこうしないといけないというものを打ち出していけないと、なかなかできないと思うし、県民性、また県の中でも地域性というのがありますので、実際、本当に在宅介護を望み、そういう政策をとりながらもそういう方向に行っていないというのは、現実にあると思うので、これからどう分析というと大げさだけれど、克服して、自分の家あるいは自分の家の近くのそういうところでという、年寄りが本当に健康で、最後は住みなれた地域でというのはみんな

が思っ望んでることですけれども、なかなかできないというところをどのように分析してやっいてこうと思っているのか、2点、お願いします。

○中川知事公室審議官（県立医科大学・周辺まちづくりプロジェクト担当）兼まちづくり推進局次長兼医療政策部次長 先ほどご説明させていただきましたように、関係部署で連絡調整会議をさせていただいております。これから申し上げることは検討している状況でございますので、全部が実現するかどうかわかりませんが、ご参考に、こういうことを検討しているということでご承知おき願えたらと思います。

まず、県立医科大学またはその周辺の土地利用の関係でございます。例えば用途がどうなっているとか、容積率がどうだとか、建蔽率だとか高さだとか、それについて今、関係のところはこういう状況ですと、現状についてお互い認識をしましょうということで、現状を報告して把握しました。これから整備に向けて、例えば変更がどこまで可能なのかとかはこれからの検討になるかと思っます。

それと、もう一つ、埋蔵文化財の状況でございます。埋蔵文化財の状況につきましても、過去に文化財の発掘をされた、それとか文化財の埋蔵の状況などを示す戸籍地図もございませす。そういうものを把握しながら、敷地は使われているところばかりでございませすので、発掘調査ができるところについては、積極的にやっいていませすという話になっております。

それと、県立医科大学附属病院へのアクセスの改善ということでございませす。現在の県立医科大学附属病院の駐車場の状況については、9月の病院を核としたまちづくり推進特別委員会のときにもご報告させていただいたと思っますが、バスの利用ということで、9月上旬にアンケート調査を県立医科大学でさせていただきませす、その調査結果を今まとめて分析しているところでございます。

それと、新駅のこともございませすので、最近、関西地方で新駅が設置された状況について、先例事例といませすか、現状の把握をしているところでございます。

それと、櫃原市にもご検討いただいております、図面を見させていただいたほうがわかりやすいかと思っませすけれども、県立医科大学の周辺図で、近鉄櫃原神宮前駅が下に記載しております。そこから北を向いて、櫃原神宮の参道と言われている県道畝御陵前停車場四条線から県農業総合センターに入ります櫃原市道ですが、慈明寺町・四条町線、これについて、これから拡幅計画ということで、積極的に検討していただいている次第でございます。

大まかなお話でございますけれども、今の検討状況ということでご承知おきいただけたいと思います。以上でございます。

○中川知事公室審議官（県立奈良病院跡地活用プロジェクト担当）兼医療政策部次長医療管理課長事務取扱 神田委員の2点目、ソフト面のことかと思っておりますけれども、高齢者の方がこれから住みよい町ということで、どういう課題を持っているかというご質問であったかと思っております。

今の時点で、ここまで検討を重ねている中で見えてきた点が幾つかあります。まず欠かせない1点目としては、行政が本気でこのことに向き合うこと。これは県もそうですけれども、市町村も同じくということだと思います。2点目が、医師会の先生方に積極的にかかわっていただく必要があると、これも大きな課題だと思います。それから、3点目が、住民の方にどうやって議論に参加をしていただくか、これは先ほど大国委員のご指摘のあったとおりでございます。これも大きな課題だと思います。

もう1点が、地域のコーディネーターとしての保健師さんの活躍が何より必要だと。保健師をどういう形で議論に入っていくか、これも欠かせない大きな課題ということで、現時点では行政、医師会、住民の方、それから保健師の活躍ということが見えてきた大きな課題と思っておりますので、これをどうやって組み合わせていながら進めていくかというのが、現時点での認識でございます。以上です。

○神田委員 どうもありがとうございました。県立医科大学の周辺、いつ聞いてもこれからです、聞く期間が短いのかもわからないけれど、問題がいろいろあって大変だと思います。駐車場の件も、またいろいろな跡地予定地のこともあって大変とは思いますが、やると決めたら一日でも早くいいものをと希望しておきます。橿原市の小房交差点は、このごろわりとすいているし、その辺またもう一工夫していただいて、もっとスムーズにと。京奈和自動車道が開通して供用できるようになってからずいぶんすいたと思っておりますけれども、県立医科大学がもっと充実してくるとまた込むかもわかりませんので、そんなことを含みながら検討していただきたいと思っております。県立医科大学につきましては、なかなか新県立奈良病院のようにいかないというのは承知しておりますけれども、一層のご尽力をいただいて、よろしく願いをしておきたいと思っております。

それから、医療と在宅介護の課題ということで、これから本気でやっていく中で、4つの項目を上げていただきましたけれども、いろいろなことを試みて、いろいろなことを提供し、いろいろな会合をすとか、どの団体を巻き込んでいくかと、そういう試みを提案

して、提供してもらっていますけれども、それがなかなかうまくいかないところが行政も一番の困ったことでしょう。こういうのをしますからご参加くださいといっても、それになかなか乗ってきてもらえない。特に一般の住民の方はそういうところがありますので、その辺をどうするかが一番大きな課題だと思うのです。

だから議員も住民の皆さんに参加とか、いろいろなものを促していくような協力はしないといけないとは思っているのですけれども、住民こそって、県民こそってそういう問題を自分の問題として取り組んでもらえるように、努力をしてほしいと思います。少し認知症があつて施設に入られて、それで少しでもよくなって出てこられたらいいのですけれども、逆の場合もあるというところで、施設へ行くよりも、昔からの周りの人がおられる、そんな中で過ごしていくほうが認知症も進みが遅いということも聞いていますので、在宅介護に向けての努力は本当に本気でやらないと、財政のこともあります、そういうところは頑張してほしいと思います。以上でございます。

○山村委員 2つほどお聞きしたいと思います。

1つは、平成25年度予算で県立奈良病院跡地のまちづくり基本計画を策定するという事で取り組んでいただいていると思うのですけれども、その進捗はどうなっているのか、計画の案としてはいつごろ出されてくるのか、その中身について伺いたいと思います。

それからもう1点は、皆さんおっしゃっていることなのですが、県立医科大学周辺のまちづくりを本当に成功させていくためには、中川医療政策部次長のご答弁にもありましたけれども、行政の取り組みの本気度が問われますし、関係住民の参加が重要だと思っているのですけれども、奈良市と協議をずっとしていただいていると思うのですけれども、感覚からいえば、市の取り組みになかなかかなりにくいのではないのか、なっていないのではないかと思うところがあるのです。本当にまちづくりとして成功させていくためには、市みずからが、例えば推進室を立ち上げるというような形で県と一体となって進めていくという強力なものがなかったらうまく進んでいかないのではないかとすごく思っているのですけれども、市の状況はどうなのかというのと、県の働きかけです。

それと、ずっと先ごろから話題になっています地域の中での地域包括ケアというか、包括ケアシステムというか、そういうもののモデル地域になるような取り組みを目指しておられると思うのですけれども、それを本当に進めていくことになると、奈良市もそうなのですが、住民側が少しでも自主的にかかわっていくという動きを大事にしていたかないといけないと思っています。呼びかけて参加していただくことも当然ですけれども、

自分たちで何かということ、自主的に動いているような動きがあれば、それを取り込んでもらうことが非常に大事ではないかと思っていますので、そういう人たちと力を合わせていただくということも進めてほしい。それと、奈良市内全体を見ておりましたが、西部のほうでは、例えば認知症のサポートという問題で自治会を巻き込んで、地域包括支援センターなどが中心に、地域の中での介護システムという形でいろいろな進んだ取り組みをやっておられるところがあります。実際に市内で起こっている事例ですので、ノウハウを生かしていくとか、こちらで参考にしていけるような形で生かしていくことも必要ではないかと思うのですけれども、その辺のところをお伺いしたいと思います。

○中川知事公室審議官（県立奈良病院跡地活用プロジェクト担当）兼医療政策部次長医療管理課長事務取扱 それでは、何点かご質問いただきましたので、お答えさせていただきます。

まず、予算でございますけれども、今年度、まちづくりの構想策定ということで予算をいただいて、今この検討と含めまして、どういう形でこの予算を使っていくのか進めているところでございます。2月にイメージということで、議会にもまちづくりのイメージ図を作成させていただいて、昨年それが1つの成果だったのですけれども、先ほどから議論が出ておりますソフト面の医療と介護の連携であったり、どういったソフト面の取り組みをしていくのかということが非常に重要で、今回の予算は、ハード整備の検討というよりは、ソフト面の取り組みをまちづくりの中でどう取り組んでいくのかという視点に立ってこの予算を活用させていただきたい。最終的には奈良市平松地区のまちづくりのソフト面の取り組みのアイデアを盛り込んだようなものを今年度の成果にしたいと、現在、検討しているところでございます。

2点目は、奈良市との関係でございますけれども、ご指摘いただいたように、なかなか奈良市全体としてこの問題に取り組むことは厳しい面もあるのですけれども、先ほど奈良市六条山地区のアクセス道路の検討を医療政策部長からご報告をさせていただきましたけれども、奈良市もアクセス道路、それから奈良市六条山地区周辺の整備につきまして、県とかなり協調してやっていただいております。奈良市平松地区の取り組みは、現時点ではソフト面の話を中心ですので、市の部署でいきますと、福祉関係の部署が中心になりますけれども、こちらには県としても経過報告をさせていただいたり、それから意見交換をする機会を持っているのですけれども、まだ奈良市の計画と整合をとって進めるというところには至っていないのが実情でございます。

ただ、講演会の場であったり、地域の協議会には奈良市の担当課長が必ず出席していた
だいておりますので、これからも奈良市との関係は大事でございますので、協調して進め
ていきたいと思っております。

それから、山村委員からアドバイスということだと思っておりますけれども、住民の方に参
加していただく動きということで、直接存じていないのではありませんけれども、奈良市西部の取り
組みの事例も、ご指摘いただきましたように、地域包括支援センターや住民の方は、非常
に大事な視点でございます。先ほど、多職種の勉強会の中でも地域包括支援センターがも
う少しパワーアップできるような環境づくりが必要というご意見をいただいております。
小規模ですし、なかなかケースワーカーさんが個々の方のケアプランを書くだけで精いっ
ぱいという状態が続いているとお聞きしておりますので、是非そこを何かの形でパワーア
ップできるような取り組みを入れていくことで、まちづくりの中心的な役割の1つを担っ
ていただくことになるとも感じております。以上でございます。

○山村委員 そうしますと、今年度のソフト面の取り組みについてのまとめというのは、
次の委員会ぐらいには出るということなのですね。2月の委員会的时候にはそういうまと
めを出していただくということですね。

それから、今お話がありましたように、とにかく奈良市が本気になって取り組んでいた
だけのような関係を私たちも働きかけていきますけれども、ぜひとも県としてもお願いし
たいという思いがあります。

それと、今お話にあった地域包括支援センターは、本来は地域全体の包括ケアについて
いろいろな形で提案していくところなのではありませんけれども、現状は、ほかの仕事がたくさんあ
ってなかなか動けない状況もあるのですが、現場には保健師さんもいらっしゃいますし、
地域包括支援センターの中で保健師さんの果たす役割も非常に大きいものがあります。そ
こをもっと強化してほしいと思っておりますが、そういう力も生かしていただきながら、
先ほど来出ておりますいろいろなアイデアを、これからまだまだ期間はありますので、実
現に向けて十分検討して進めたいと思います。以上です。

○荻田委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○荻田委員長 ないようでございますので、これをもって質疑等を終わりたいと存じます。

それでは、理事者の方、ご退席を願いたいと存じます。早朝からご苦労さんでございま
した。

委員の方は少し残っていただきたいと思います。

(理事者退席)

○**荻田委員長** それでは、本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと存じます。前回の委員会で発言がありました今後の取り組みや要望をまとめたものをお手元にご配付しております。当委員会の所管事項であります病院を核としたまちづくりの推進について、今後特に議論を深めるべき課題や論点について討議を行っていただきたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

自由にご発言をいただきたいと思います。

○**森山副委員長** どこの病院でもそうですけれど、神田委員がおっしゃったように、協議内容が少しでも具体的になったら教えてほしい、それに尽きます。2カ月に1回調整会議がありまして、その一番ホットな情報というのをその都度教えてほしいと。

○**神田委員** 私たちもそうして質問するので、きちんと協議して新しいこと言えるよう、頑張って協議会を開いてくれないといけない。なかなか具体的な案が出てこない。

○**荻田委員長** 県立医科大学の関係はともあれ、1月、2月にやられるのですから、また改めて報告をしていただくということですし、これはよくわかるのでいいかと思います。

それから、今、ハード面の話は、新県立奈良病院の近鉄西ノ京駅からの交通アクセスなどは進んでいるのですけれど、現在あります県立奈良病院の跡地利用、特にソフト面の話をまず進めていくことも大切かと思えますし、次の委員会は来年の2月定例会の前ですね。ということは、そのときに一度全国的にこういった病院の跡地利用をしている事象があれば、講師の方を招いて勉強会をさせていただくのも一つかと思えますので、その辺何か事務的に、事務局長、政務調査課長でも、どうですか。全国事例で先進的にやられているところ、例えば千葉県の柏市の話も出ていましたけれども、今、新潟県でもいろいろな……(発言する者あり) うん、そうですね。(発言する者あり)

○**山村委員** まちづくりという形で、地域包括ケアで保健所などがすごくがんばっている地域もあるので、そういうところの実例を見に行くとか、そのようなことをすればいいと思います。九州の地域で高齢者を支えていく仕組みを地域包括支援センターや施設が総合的に連携してやっておられるようなので、そのようなものが参考になると思います。

○**荻田委員長** ただ、現在の県立奈良病院の敷地、大概広いので、病院が建って町ができたという今までの経緯ですので、これを本当の意味での地域包括支援という、高齢者や住んでいる人にとって安全で安心して暮らしていけるまちづくりという、何かモデルになる

ようなまちづくりをすることが一番いいのかと思うのですが。

事務局長、話が出ています地域包括支援センターとして非常に頑張っておいでになるようなところ、それから病院があって、その跡地利用として成功をしておられるところ、こういったところで次回の委員会は勉強会にするか、事務局で精査していただいて、1月の早い目に次回の委員会をやる一つの目的、そしてまた効果のあらわれているところをご意見いただけませんか、資料として。

○石井事務局長 今おっしゃった、実際先進事例となるようなところがあるのか、余り古くてもしょうがないので、そういったところを理事者に確かめて、一定程度参考になるであろうというものが出てくるか、まず探させていただきたい。例えばちょっと観点を変えたらあるということがあるかもわかりませんが、それも含めて、まずそういう先進事例というようなところに当てはまるのかどうか、探させていただきたいのが1点。

それから、もしそういうことが何か浮かび上がってくれば、講師も必要になるかもわからない。それは委員長にご相談させていただいて進めさせていただいていいかどうか、それも含めて、委員長お願いします。

（「お任せします。」と呼ぶ者あり）

○荻田委員長 事務局長からお話しいただいているように、先進事例として講師を招くのか、そういったことも含めて、早い段階で皆様方に文書で通知をさせていただいて、次回の委員会は、そういった中で対応していきたいと思いますが、よろしゅうございますか。どちらにしても、この前は東京大学の先生が講演をなさったとか、いろいろあるのですが、こういった方面で頑張っている先生、また違う先生でも、目先、ご意見は違うと思うので、そういったことを参考に次回の委員会に望みたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、ご意見がないようでございますので、委員間討議を閉じることにいたします。ありがとうございました。

これで委員会を終わります。